

第2節 校内組織の整備の推進

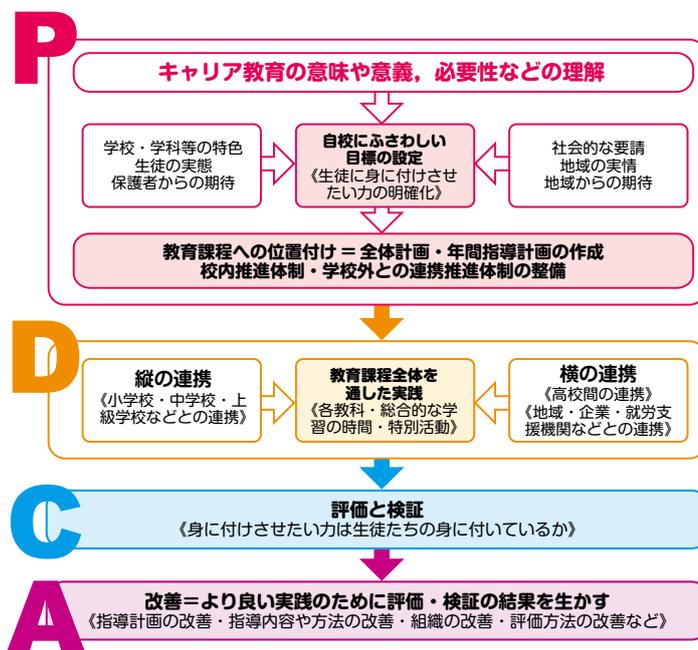
1 キャリア教育の推進と校長の役割

第1章で詳しく整理したように、中央教育審議会は平成23年1月31日、答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」を取りまとめ、今後の学校教育におけるキャリア教育の重要性とその方向性を示した。本答申は、キャリア教育を「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」と定義し、特定の活動や指導方法に限定されず、様々な教育活動を通して実践されるものであると明示している。また、キャリア教育を通じて育成すべき「基礎的・汎用的能力」を具体的に示すとともに、これらの能力をどのようなまとまりで、どの程度身に付けさせるのかは、学校や地域の特色、生徒の発達の段階によって異なるとした。

このことは、キャリア教育において、各学校が目標及び育成したい能力や態度、教育内容・方法などについて決定していかなければならないことを意味する。教育課程の最終的な編成者である校長は、このことをしっかりと受け止め、リーダーシップを発揮しながらキャリア教育を推進していかなければならない。

校長は、自らの学校経営の中にキャリア教育をどう位置付け、これを推進していくか、明確なビジョンを持たなければならない。キャリア教育の教育的意義を校長自らが十分に理解し、自校の生徒たちにキャリア教育がなぜ必要なのか、自校の生徒たちにはどのようなキャリア教育が求められているのかを、正しく見極め、自校の教育課程にキャリア教育をどう位置付けるのかを検証し、その具体的な指針を学校経営計画として打ち出すことが必要となる。

校長は、自らのビジョンを明確にした後は、学校全体で組織的にキャリア教育に取り組む雰囲気を醸成するとともに、推進体制を構築していくことになる。校長が、教職員や生徒に向かって、会議や集会や便り等の様々な場面で、キャリア教育の必要性を説くことはもちろんである。さらに、校長は、キャリア教育推進のために、保護者や地域との連携や理解・協力を得るために、情報発信と広報活動の先頭に立つ必要がある。小学校・中学校・上級学校・企業等との指導方法の関連性や発展性の確保のために、合同研修・共同の指導計画の作成等を提案したり、それを実現させたりするキーパーソンとなるのが校長の役割である。



2 校内推進体制の整備

キャリア教育は、学校の全教育活動を通して取り組んでこそ、そのねらいを達成することができる。そのためには、学校全体で、全教職員が一丸となって、キャリア教育推進のために協働できる組織や体制作りが必要である。従来の学年や分掌を超えた、推進組織や体制作りの視点が必要になってくる。その組織には、生徒の指導に直接関わる指導体制と、保護者や地域等の校外との連携を担う体制が必要となる。

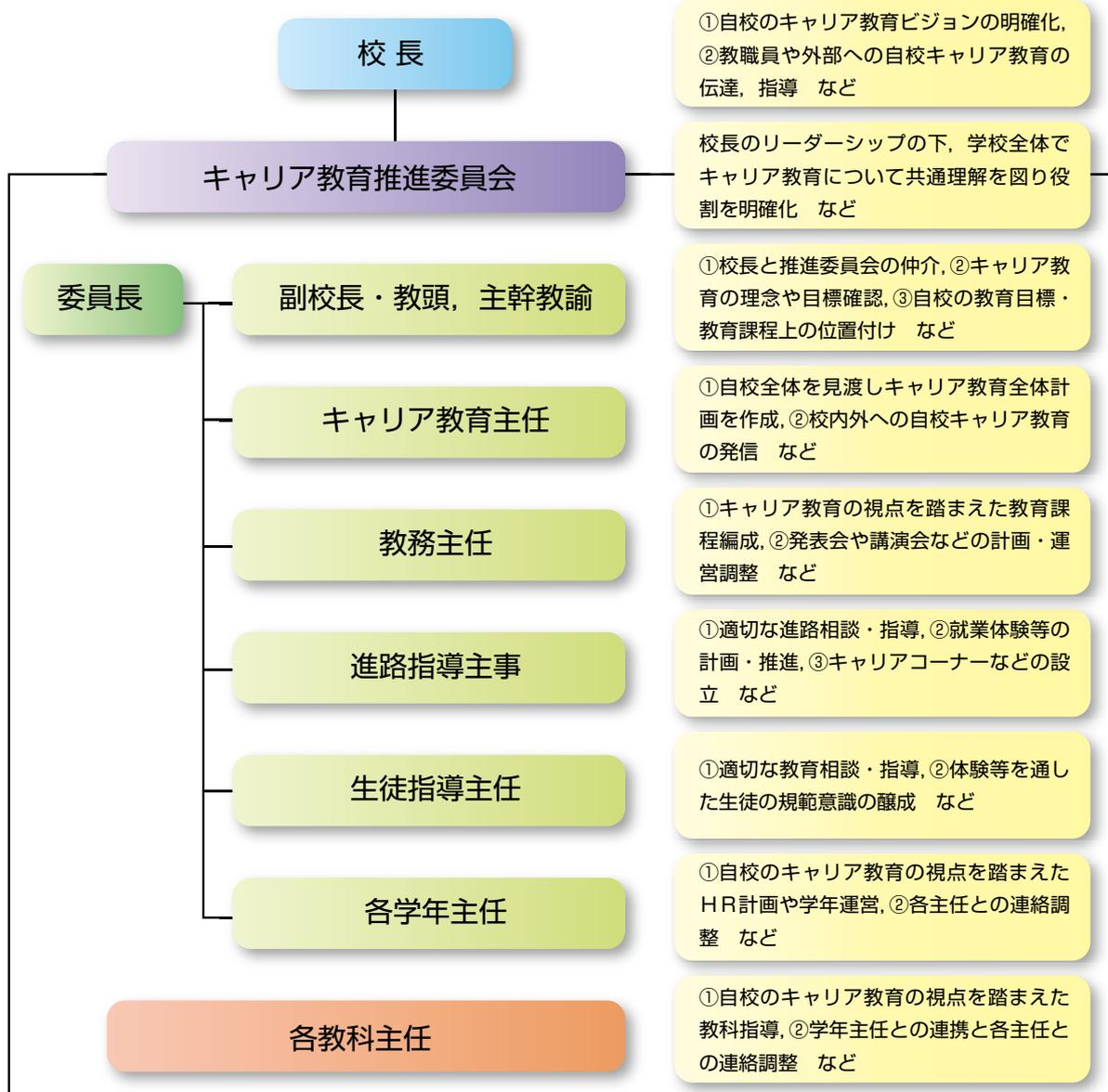
(1) 実践を支える運営体制

学校の全教育活動を通じたキャリア教育の実践を支えるための全体運営体制が必要である。校長を頂点とし、教育活動全体を俯瞰的に捉えて、立案や運営ができる体制を作ることがポイントである。それには、キャリア教育推進委員会等の校内組織を整える必要がある。

キャリア教育推進委員会の位置付けは、各学校の事情を考慮することが大切である。学校全体の既存の組織を包含したような組織を作ることにも可能であるし、特別委員会として既存の分掌等の組織とは別の委員会を設置することも可能である。ここでは、キャリア教育推進委員会が既存の組織を包含し、学校全体の教育活動を俯瞰できるような組織図を例示した。この組織体制によって、キャリア教育の全体計画や年間指導計画の作成と実施、連携機関との連絡・調整、生徒への直接の指導、実践上の課題解決や改善、キャリア教育の評価等を実践していく。

キャリア教育推進委員会の構成メンバーは、副校長・教頭、主幹教諭を中心に、教育活動の一般的な調整を図るためのキャリア教育主任、教務主任、進路指導主事、生徒指導主任、学年主任や生徒の直接の指導に関わる教科主任、総合的な学習の時間の担当者を位置付けることが考えられる。さらに、生徒の学びや教職員の研修を支えるために図書館担当・情報担当、外部との連携

組織図例



※外部との連携を図るためにコーディネーターを配置することも考えられる。

をより推進するためにPTA担当者，同窓会担当者，学校運営連絡協議会担当者，施設設備や予算の確保のための事務担当者を，学校の事情に即して組織していきたい。

さらに，こうした体制が円滑に機能するためには，その活動を保障する環境が必要である。会議時間の確保や場所の確保を常に念頭に置いておきたい。

(2) 生徒に対する指導体制

担任は，ホームルーム活動・学校行事・生徒会活動の特別活動の時間や総合的な学習の時間等の指導を通して，直接的な指導者としてキャリア教育を実践していくことが多い。学年会では，学校としてのキャリア教育の目標を当該学年での達成目標として具現化し，当該学年の中で共通なキャリア教育が実践できるように，具体的な計画を立てて指導を行う。学校行事や生徒会活動を担当する部署との連絡調整を図り，連携してキャリア教育を実践していくこととなる。総合的な学習の時間等についても，生徒の発達の段階に応じた共通の指導計画の下で指導していく。

教科担当は，担当する教科を通じてキャリア教育を推進していく。教科の指導のねらいを達成する指導とともに，キャリア教育の視点で教科指導を行う。その際，他教科との関連を意識することが大切である。

以上のように，学校全体でキャリア教育を推進するということは，多くの担当者が様々な場面でキャリア教育を実施していくということである。このような様々な活動がどのように実施され展開されているかを全教職員が理解し把握しておくことが，効果的なキャリア教育の推進には必要となってくる。

そのためには，情報発信の体制も整えておくことが大切である。例えば，日々の授業を公開することによって，各教科でのキャリア教育の取組状況が把握でき，学期や学年の区切りに実施する成果発表会でその学年の実践が理解できる。体験活動の様子を記録した写真や生徒の作品やポートフォリオを掲示したり，関連する資料や書籍を展示したりするキャリア教育のコーナーを設置することも効果的だろう。また，学年通信や進路通信や学校だより，学校の公式ウェブサイト等によって，保護者や地域に向けて，広く学校でのキャリア教育の取組を発信し，共有していくことも，理解や支援を得るために大切な手立てとなる。

(3) 外部との連携体制

効果的なキャリア教育の推進には，就業体験活動（インターンシップ）や様々な社会体験など外部との連携が不可欠な取組がある。こうした外部連携のために，連携体制を整える必要がある。

効果的に連携活動を推進するためには，家庭と学校，地域と学校，企業と学校，他の学校と学校を結び付ける役目を果たすコーディネーターを配置した指導体制も考えられる。コーディネーターとして校内の担当者を配することも可能であるし，NPO等の外部人材を活用することもできる。校内体制の中に，外部連携体制の窓口又はパイプ役としての担当者を配することを忘れてはならない。

また，外部との連携に当たっては，その目的や期待する効果等をあらかじめ明確にし，それを地域・社会・企業等に対して説明するとともに，外部に任せきりにすることにならないよう，各学校の教職員が主体的に関わる必要がある。

3 教職員研修

(1) 教職員研修のねらいや内容

教職員研修には，大きく3つのねらいがある。

一つ目のねらいは，校長が自らのキャリア教育に対するビジョンを教職員に周知する場にするということである。自校の生徒たちにどのような能力を培うためにどんなキャリア教育を実践したいのか。そのために，どんな全体計画を立案し，どのような体制で，いつまでにどのような方

法でキャリア教育を推進するのか。キャリア教育推進計画を具体的に打ち出し周知する場にする。

二つ目のねらいは、教職員全員がキャリア教育の理念や意義に対して共通理解を得る場にするということである。キャリア教育が求められる時代背景、キャリア教育がもたらす効果、キャリア教育によって生徒にどんな能力が培われるか等の共通理解を、教職員の中に醸成する場にする。

三つ目のねらいは、自校の特色や生徒の実態に応じたキャリア教育の展開全般に関わる実践能力の向上を図る場にするということである。自校の生徒に身に付けさせたい能力や態度の具体化によるキャリア教育の目標の設定、指導計画の立案、教材の吟味、教材作成、体験学習の指導法、関連機関との連携の方法等、先進校の情報収集や事例研究、自校の取組の評価・検証等、キャリア教育を具体的に展開するための手法等を、実践的に学ぶ場にする。

(2) 教職員研修の実施形態

全教職員が同一の会場に集まって実施する研修も有効な方策ではあるが、教科単位、学年単位、課題別グループ単位などの少人数で実施するなどの工夫をしたい。そしてそれぞれの課題に応じて計画的、弾力的に研修を実施していくことが大切である。また、研修の方法も講義形式のほか、事例研究、ワークショップ、演習方式、授業研究など学校の実態や研修のねらいに応じて工夫する必要がある。

教職員研修の例

	研修のテーマ	ね ら い	
第1回	キャリア教育の意義	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校におけるキャリア教育の意義を理解する。 ・キャリア教育の推進に不可欠な教職員全体の意識を高める。 	◎研修内容や留意点についても、各校において定めておくことよい。
第2回	キャリア教育の目標の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・自校の生徒におけるキャリア発達上の課題、育成したい能力や態度を明らかにし、キャリア教育の目標を設定して、目指す生徒像を明確にする。 ・明らかにされた育成したい能力や態度と各教科等の関連を考え、全体計画、年間指導計画などを作成する。 	
第3回	キャリア教育の視点に立った授業づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科等の単元指導計画や一単位時間の指導計画を作成する。 ・授業研究により、指導力の向上を図る。 	
第4回	家庭や地域との効果的な連携	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭や地域のキャリア教育に対する理解を促進する手立てや、学校の特性を生かした効果的な連携の進め方を話し合う。 	
※適時	キャリア・カウンセリング	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的なカウンセリング能力、コミュニケーション能力を高める。 	

(3) 記録の保存や活用

研修の有効な推進には、過去の内容をいつでも検索できるようにしておくことが重要である。そのためにキャリア教育の全体計画、年間指導計画、実践記録、生徒たちが作るキャリア教育における成果物の作文などの作品、映像記録、参考文献などを、進路室や図書館、キャリア教育コーナーなどの一箇所に集めて整理・保存しておくことよい。

キャリア教育の全体計画、年間指導計画や、キャリア教育の教材等は、電子データで保管し、必要ときに教職員が閲覧できたり、加工できたりする環境を作っておくことよい。蓄積された資料を活用して、次年度の教育活動の立案や新たな教材作成に有効利用していくことが重要である。